

令和8年度

徳島市富田中学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

個別最適な学びと協働的な学びを充実させ、
自走する実践者を育成する。

校長

滝川 尚

学力向上推進員

木津教諭
上野教諭

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
<p>○学習内容について、「わかる」と感じている生徒は多い。</p> <p>●知識を習得することに留まり、理由や根拠が理解できていないなど、表面的・断片的な理解になっている場面が見られる。また、身に付けた知識を活用したり、既習事項と関連付けて考えたりすることに課題がある。</p>	<p>・基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得するとともに、学習内容の意味や根拠を理解し、既習事項と関連付けながら、活用することができる。</p>	<p>・知識や技能を習得する過程で、「なぜそうなるか」「どのようなつながりがあるか」などを繰り返し問い、理解を深める授業づくりを行う。</p> <p>・知識をインプットするだけでなく、説明する、まとめる、活用するなど、アウトプットを重視した学習活動を充実させる。</p>			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
<p>○対話や自己表現を必要とする活動に対して積極的に取り組むことで、仲間と学びを深めたり広めたりすることができる。</p> <p>●正解が一つではない問いや、自分で考えを構築していく課題に対して、思考が止まってしまう場面が見られる。</p>	<p>・仲間との対話を通して、多面的・多角的に考えながら、自分の考えを構築し、表現できる。</p>	<p>・すべての教育活動でファンリテーションの視点を取り入れる。また、協働的な学習の場を設定し生徒同士の考えをつなげたり問い返したりしながら、対話の質を高める。</p> <p>・正解が一つではない問いや、複数の考え方が生まれる課題を取り入れ、生徒が根拠をもって考え続ける授業づくりを行う。</p>			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
<p>○学習活動に前向きに取り組むことができる。</p> <p>●学習の目的や意味を十分に理解できず、受け身になっている生徒や、自分に合った学び方を見いだせていない生徒が見られる。</p>	<p>・学びを自分事として捉え、自分に合った学習方略を選択、調整しながら、主体的に学び続けることができる。</p>	<p>・生活や社会とのつながりを意識した問いを設定し、自分事として学びに向かえるようにする。</p> <p>・各教科において、多様な学習方略を身に付けられるよう、自分に合った学び方を選択、活用する場を設定する。</p>			